

# 望月人権文化センター運営委員会議事録

公開 可 否 S-F3

配布先		主 催		No. 1/3
議事録名		承認	事務局	記録者
望月人権文化センター運営委員会				
作成日 平成25年5月27日				
日 時	平成25年5月27日 (月) 13時30分～14時20分	開催場所 望月人権文化センター		時間 50分
出席者	望月人権文化センター運営委員会委員5名 (3名欠席) ・藤牧部長・榎澤館長・高野課長・伊藤隣保館係長 ・木曾 (望月人権文化センター職員) ・高橋 (生活人権相談員)			
提出資料	運営委員会資料			
<p>1 開会 (館長 開会のことば)</p> <p>2 部長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長あいさつ (真田喜三郎会長)</p> <p>5 会議事項</p> <p>議題</p> <p>(1) 平成24年度望月人権文化センター事業報告について (木曾説明)</p> <p>質疑応答</p> <p>委員 資料見やすくなった。 資料2ページの「周辺地域巡回事業」は大切な事業だと思う。定期的に実態を把握しながらやってほしい。</p> <p>会長 「相談事業」には個別訪問によるものがあるが、世帯を訪問して受け入れてもらえているか。</p> <p>相談員 事業のチラシなどを訪問して配布している。そのとき何か相談あるか聞いて回るが、全ての人が話してくれるわけではない。地域には事情を知っている人がいるので、その人に聞いて関わっていくこともある。チラシなどを配りながら、健康問題や仕事の問題などを聞いてくる。会えない場合は、相談することがあったら連絡してくださいというプリントも配ったりする。</p> <p>委員 講演会などの催しで、何かいいPR方法がないかと思っている。ほかの事業と重なって参加できない人もいる。集まりやすい事業となるよう実施する前によく練り上げてほしい。</p>				

#### 委員

望月解放子ども会は、低学年の子どもが増えた。週1回は子ども会の事業がある。子ども会の事業を理解していて、一緒にやりたいと思っている人もいる。

手話教室は多くて15、6人の参加者だが、障がい者のことを含めやっていて微笑ましいが、あまり知られていない。もう少しPRに力を入れてほしい。

隣保館の事業が発展していくような取り組みをしないとマンネリ化してしまう。力を入れて取り組んでいく時代だと思う。

#### 会長

手話教室の人たちは、公民館のつどいにも出演している。いいことだと思う。

望月人権文化センターの利用者数は、他の会館と比べて多いか。

#### 館長

公民館などは、望月人権文化センターより利用者数多いが、望月人権文化センターはうまく使ってもらっていると思う。去年の11月から今年の2月まで、障がい者の職業訓練に無償でお貸しした。障がいを持たれている方も利用した。

#### 委員

工芸教室は8年間やってきて卒業した人たちがいる。その人たちとは長くお付き合いしていて交流できている。参加者は最近少なくなってきたので、もう少し増やしたい。

### (2) 平成25年度望月人権文化センター事業計画について (木曾説明)

#### 質疑応答

#### 委員

佐久市が合併して、今隣保館を一つの形とする時期。隣保館はどこの部分を担っていくのかはっきりさせることが大事。隣保館の位置づけが大事。

事業が単発で終わってしまっている。人材をつくっていく継続的な事業が大事。それにあった事業内容を考える必要がある。

望月人権文化センターを昨年度は1,680人利用したとのことだが、NPO法人でセンターに関する要望を聞いた。団体の活動内容を知らせる掲示板を用意してほしい、センターの入口が交通事故に遭いそうで危ないのでなんとかしてほしい、という要望があった。

もちぎき人権フェスティバルは限られた団体の発表の場となっているが、センターを利用する団体や人の発表の場を設けてほしい。センターを利用する人たちをいかに隣保館事業につなげていくかが大事。

#### 課長

平成24年度と25年度は、同じような事業がありマンネリ化の傾向がある。常に研究する必要がある。工夫をして25年度に生かしていきたい。

地域内が交流する中で顔見知りになることが大事。そこに新しい人を入れることを検討してほしいと職員の会議では話をした。

周辺地域の状況の把握は、職員だけではできない。地域の皆さんの力が必要となる。何か相談が必要なことがあれば高橋相談員に聞いてほしい。そういった相談できる体制を作っていきたい。

望月の協東、小平、古道は望月人権文化センターから離れている。たとえば、集会場へ出かけて行って、事業をやるなど工夫させていただきたい。杖をついた人がセンターに来れるかという点と来れない。幅広く検討したい。

#### 委員

センターから遠く離れていて、出てこられない人がいる。近くでお茶飲み会はどうかと声を掛けてみると、やってほしいという声があった。

#### 会長

自分もそばでそういう機会があれば参加したいと思う。

#### 部長

こちらから積極的にセンターから出ていくことなど、できることであれば相談させていた

だきたい。できることは実施していきたい。

#### 委員

自分は忙しいから参加しないという人がいる。たまに地域の草刈があるが、そこにも参加しないという現状がある。自己中心的になっていて、地域との関わりが薄れている。どう参加してもらおうかということは難しい問題と思っている。センターでこういう事業があるから行ってちょうだいと言っている。パソコン教室は、普通にやっている教室には行きにくい面があるが、センターの教室なら行きやすいのでお誘いをしている。

センターの取り組みは皆さんにお知らせしたいと思っている。折に触れて話をしていきたい。

#### 館長

去年から有線放送で事業開催の1週間くらい前から1日2回流すようにしている。

#### 部長

市の事業に関わりたくないという傾向がある。地域の絆が薄れている。積極的に広報を其次につなげることをやっていきたい。

#### 課長

地域の工夫を取り入れ、皆さんに応援をいただきながらやっていきたい。もちづき人権フェスティバルの中などでも、センターを利用している人たちに出てもらいたいことなど考えたい。

#### (3) その他

なし